

環境問題の昨日、今日、明日 ～そしてあなたは……

地球環境保護は「一人立つ精神」で

兵庫県生活文化部 環境局
局長 小林悦夫



環境問題は 「地域・足下」から「地球規模」へ

兵庫県環境局の小林です。本日はよろしくお願
いします。

最近、環境問題は質が変わってきております。
地域の環境問題、水質汚濁であるとか大気汚染と
いう足下の環境問題から、地球規模の環境問題へ
と変わってきたように思います。

それから、もうひとつは、だんだん皆さんが豊か
になって、その豊かになってきたことによって、
望む環境のレベルが上がってきたことです。本当
は望む環境がそれだけ上がってくれば、それに見
合うだけ自分の意識も上がってくればいいんですが、
意識は上がらず、望む環境だけが上がっている。

きれいな景色を欲しいと言いながら、ディーゼ
ル車に乗って走り回っている。若い方にとって、
それが一番のトレンドということかも知れませ
んが、新しい環境を望むのであればそれなりの努
力をすべきであるということが、いま一番言われ
ていることではないかと思えます。

こんな感じで、少し雑談をさせていただいて、
最後に皆さんの意見を聞かせていただきたいと思
います。

「環境問題の昨日、今日、明日そしてあなたは
……」で何を言いたいのかというと、環境問題が
どんどん質が変わってきました。そういう中であ
なたは何をすべきですか、ということをおさんと
一緒に考えてみたいということなのです。

公害問題の歴史 「山から大蛇」は水害と……

まず、環境問題において今までどんな経緯を辿
ってきたかという点についてお話ししたいと思います。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、播磨
風土記とか但馬風土記というような本を読んでは
いるとおもしろいことが書いてあります。山から大
蛇が降りてきて人を喰って人が行方不明になった
ということが記録に残っています。この記録につ
いて調べてみると、だいたい水害や山崩れがあ
ったときが多いのですが、ところが最近調べてい
る中で、それだけではなく公害問題で人が死んだ
というのが、同じように大蛇が山から降りてきて
人を喰ったという書き方になっていることがわか
ってきたのです。

その中の一番最たるものは、円山川と市川の最
上流部にある生野金山です。ここでは金を採って
生計を立てる人がたくさんおり、金を採るのに水
銀をよく使っていた。

化学屋さんにはすぐにわかると思いますが、金と
いうものは何にも溶けないのですが水銀にだけは
溶ける。水銀を使って金を精錬し金を採っていた
ので、その精錬をした水銀が流れて、水俣病じゃ
ないんですが急性水銀中毒になるというのが、結
構歴史の中に残っています。現実には、円山川の河床
を泥の分析をやると結構水銀が高いので、やはり
使っていたのではないかと思います。それと同時

に日本全体、兵庫県もそうですが水銀というのは結構よく採れ、各地に水銀鉱山があったそうです。

「丹」という字をご存じですか？丹波の丹、この丹という字がついている地名のあるところは、だいたい水銀鉱山があったんです。そういう点では昔の人は頭が良かったと思います。

奈良の大仏は日本初の公害問題？

同じような事でおもしろいのは、ご存じの奈良の大仏、あれは今は真っ黒ですが出来上がったときは金色でした。銅像の大仏を作って金を貼っていた。ところが金箔というのは金を叩いて箔にして張り付けるというような作業をするのですが、昔はそんな事ができなかった。どうしたかというのと水銀で溶かしてドロドロになった金を大仏に塗りつけていたんです。

後で水銀が蒸発し金箔が出来たわけですが、これによって奈良の大仏を造った何千人もの人が死んだそうです。これが、もともとの日本における公害問題の、初めではないかなと言われています。

歴史上の鉱山というか公害問題というのは、いつ頃から起こったのかということ、歴史にはっきり書いてあるものとして、明治10年頃に起こった栃木県の足尾銅山、硫酸化物による公害と酸性水による公害、それからもうひとつは愛媛県別子銅山、同じなんですけど煙害による公害問題というものが凄く大きな問題になりました。愛媛県の別子銅山については、精錬所だけをどこかの島に移した。今はそこが廃墟になっています。

明治に始まった法による規制

こうしたいわゆる公害問題に対しての規制として明治44年に工場法という法律ができています。何をするかというと新しい工場を造るときは許可がいる、また工場の監督者というお役所の人間が工場に立ち入りすることができる。こういう法律が明治44年に出来ています。これが日本において

一番古い公害法ではないかと思います。

その後、最近の近代的な規制のスタートというのが、昭和24年、いまから約60年前東京都が作った工場公害防止条例、これが条例としては一番始めであり、その後、昭和30年から40年代にかけて、一番問題になった四大公害というのが起こった。

四大公害というのは、水俣病、新潟水俣病、イタイタイ病、四日市喘息の4つです。

それを受けて昭和33年に工場の水質汚濁を規制するために水質二法ができました。

公共用水域の水質の保全に関する法律、工場廃水の規制に関する法律です。できたけれども実際の取り締まりはまだ行われていなかった、なぜかということ、これは地域を指定してやるということになってたので、実際に行われた事例はすぐにはなかった。

その後、昭和37年に煤煙の排出の規制に関する法律。これが今の大気汚染防止法や水質汚濁防止法の前身になった。

昭和45年の「公害国会」で進んだ法整備……そして環境庁の設置

その後、問題が大きくなり昭和42年に公害対策基本法という法律ができた。これがいわゆる公害に関する一番基礎となる法律、この公害対策基本法に基づいて、昭和45年に海洋汚染防止法だとか水質汚濁防止法、大気汚染防止法というものがどんどんできていった。この昭和45年12月にそれを全部やったんでその時の国会を公害国会とよんでいます。その後環境庁ができたんです。

国内の環境問題から世界の視点へ

ただし、その当時でも「日本国内の環境問題」というイメージしかなかった。では、世界的な環境問題ということで、みなさんの目に映っていたのがいつかということ、昭和47年6月にストックホルムで国連人間環境会議が開かれ、そこで人間環境宣言が出されたのです。これに基づいている

いるな規制を世界的にやっぴいこうということになり、このときに日本では一番大きな問題となったのは、無過失責任というものです。

過失責任とは、もし誰かが誤って人を殺した場合でも過失がなければ最終的には余り罪には問われない、過失があれば罪が強く問われるということです。

同じように公害問題に関してもその人に過失が無ければ、責任を問わなくてはよいということになっていたのが、被害が起こればそのやった人に過失があるうとなかろうと、必ず責任を問うことにするというのが、無過失責任という制度なんです、このように変わってきたということです。

その後聞き慣れた言葉かもしれませんが昭和55年にラムサール条約というのできた。水鳥の生息地である重要な湿地を保護する条約なのです。北海道の釧路湿原などがこれの指定を受けております。

それから2つめがワシントン条約。これは絶滅のおそれのある野生動物の国際的取引を禁止する条約です。外国に遊びに行ってきたときに、ワニ皮を買ってきてはいけなとかを決めている条約です。

3つめがロンドン条約。これは廃棄物の海外移出を防止する条約です。こういうものが次々と出てきた。

それから地球環境問題についてはウィーン条約というものがあります。オゾン層の保護、いわゆるフロン等によってオゾンが破壊されないようにオゾン層の保護のために出来た条約なんです。

平成4年になってリオデジャネイロで地球サミットが開かれて、リオ宣言が出されました。世界の文化遺産自然遺産の保護に関する条約もできたんです。

これは聞いていただけるとわかると思いますが、水質汚染とか大気汚染とか自分の足下の公害問題から、だんだん地球問題に広がっていきっているという感じがある。このような中で問題なのは、自分が被害者であるということから、加害者でもあるという意識への転換が、なかなか出来ていないということです。

たとえばCO₂地球温暖化問題がありますね。自分自身がCO₂を出しているが、差し迫った被害として感じない。そのためになかなかCO₂問題に意識が働いていかない。

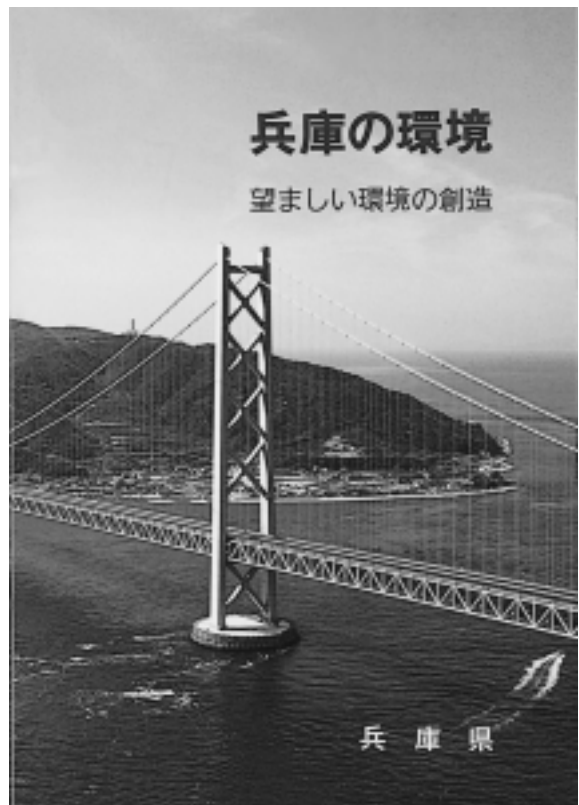
環境問題が足下から地球へと意識の変わり目をむかえている。そのような中で「自分は一体なにをするのかな」ということを考えて欲しいわけです。

県の環境白書「兵庫の環境」の発行

兵庫県の環境というのは今どのようなものかというのが、お手元の資料「兵庫の環境」です。

これは毎年兵庫県が環境白書という400ページぐらいの本を出していますが、これはその概要版です。

まず大気汚染というのは硫黄酸化物と窒素酸化物、一酸化炭素が中心になってますが、グラフを見ていただいたらわかるように硫黄酸化物、二酸化硫黄で表していますが、これはどんどん下がってっています。



今では0.005という大変低い数字になって、昔に比べると20分の1くらいになっています。その上にある一酸化炭素も、自動車排ガス測定局でどんどん下がっていています。ところが、下がってないのは二酸化窒素なのです。

が問題になってきていることです。

ほとんどが溶剤といわれるもので、機械を製造、特に電気、精密機械を製造するところによく使う化学物質ですが、こういうものが最近大きな問題となってきており、見過ごす事ができない状況になっています。

大気悪化の原因は「工場」ではなく「自動車」排ガス

浮遊粒子状物質は少しずつは下がってきてますが、まだまだ良いところには、っていない。これが大気汚染では一番問題になっている。浮遊粒子状物質と二酸化窒素の一番の原因となっているのが何かというと、昔のように工場からの排ガスではなく、自動車排ガスであるということです。

ですから今までは工場が悪いといていたのが、今は工場が悪いのではなくて自動車に乗る私たちが悪い、ということを確認していただければと思うわけです。

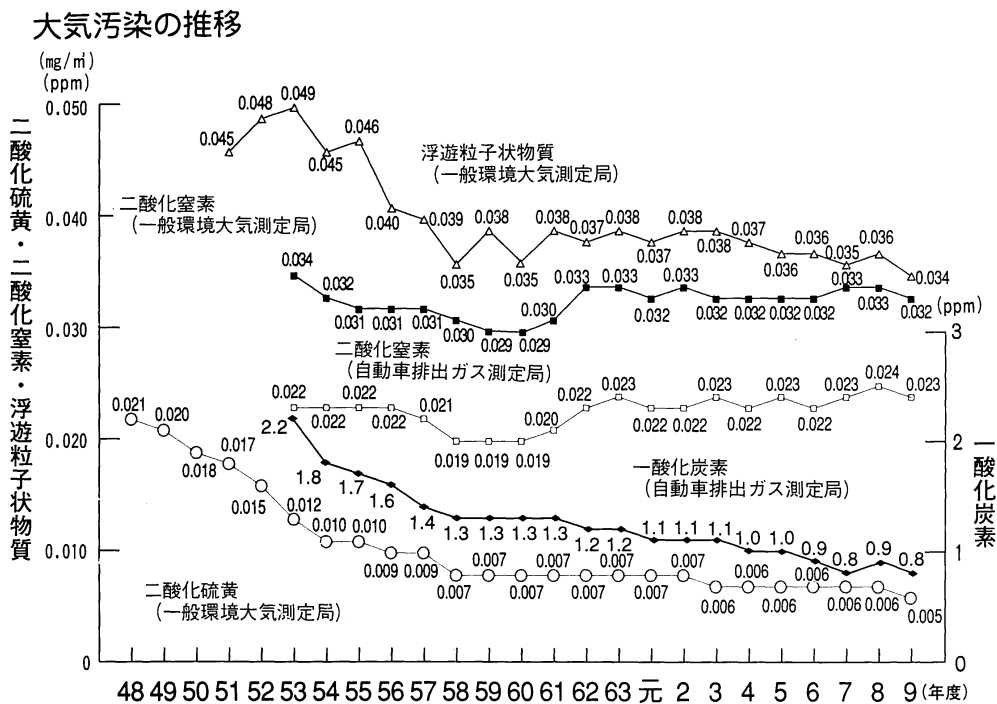
もうひとつの大きな問題は、今までは硫酸化物や窒素酸化物と言われるようなものが問題であったのですが、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンといわれるような化学物質

「震災がれき」で問題となったアスベスト

それ以外にアスベスト問題とかダイオキシン問題があります。先日の震災のときには、アスベストが大変大きな問題になりました。アスベストというのは建物の中の断熱材に使われており、化学装置関係にもこれを断熱材として張り付けております。今は殆ど使われておりませんが。

そのアスベストが建物の解体にあたって出てきた。その対策をとるということが、震災のときに大きな問題となったのです。

もう一つはダイオキシン問題。震災のときにもがれきを一時野焼きしていたのですが、この野焼きからダイオキシンが発生することで大騒ぎになりました。



(注) 継続測定局の年平均値

もうすでにやめており、いまはゴミ焼却場からのダイオキシンというのが問題になっている。

水質……きれいな川や海を

それから水の問題ですが、川や海にも環境基準があります。人の健康に関する環境基準というものが、カドミウムからシアン、鉛、ベンゼン、セレン、フッ素、ホウ素などまであります。

今は兵庫県下の水質で、この人の健康に関する環境基準を越えている所は、たまにあるのが鉛ぐらいでほとんど越えることはありません。

では何が問題になっているかというと、川と海のCOD、川ではBODという有機汚濁なのです。

進んできた工場廃水処理

実は各工場の廃水の対策は、ものすごく進んできております。私が昭和40年に県に入った時に、沈殿槽といわれるのも含めて廃水処理のついていない工場が98%ぐらいあり、ついていないところは2%ぐらいでした。

エっとびっくりされるのがメッキでシアンを使っている工場の中に、このシアンの処理施設のある工場さえ無かったのです。じゃあシアンはどう処理していたかというと、基準が1ppmだったので、基準の1ppmになるまで薄めて流していた。

その後、処理施設を作ってくださいという形で、処理施設が作られていった。現在、処理施設のない工場というのはほぼ皆無であり、どの工場でもあると思います。

現在水質汚濁防止法の規制の対象となる工場は県下で1200ぐらいあります。この中で工場廃水処理施設のない工場はありません。神鋼パンテックさんは廃水処理では専門家であるとは思いますが、工場の名前を言われて、その工場の敷地内のどこにどんな廃水処理施設があるか、すべてをご存じの方はいないと思います。

これは覚えていると、営業には大変便利である

と思いますが、少なくとも私は9割は知っています。排水処理というのは非常によく進んだと思います。

それで、河川のBODの環境基準の達成率はほとんど上がりました。現在では86.9%になっています。

それに比べて、海の環境基準であるCODはそれほど良くなっていません。始めから86%程度でしたが現在でも86%ぐらい。何で良くならないのかということですが、簡単に申し上げますと海のバフファが大きすぎて少々改善をしても良くならないというのがひとつ。

もう一点はCODというのは陸上の発生源としての汚濁の流出だけではなく、海の中で窒素、リンによって生産されるのです。その生産されたCODというのが結構あるのです。そういうことで現在もなかなか良くならないというのが海の現在の状況です。

それでも、昔は赤潮が頻発してハマチが死に大騒ぎを起こしましたが、赤潮の発生はだいぶ押さえられている。問題になって以降20年ぐらい経て、発生率というのは昔の1/20ぐらいになっている。対策が進んだ証であると思います。

その証拠に、その当時よく採れていた海苔が、いまはなかなか採れなくなっている。つまり栄養不足になっているのです。ということは海の水質はデータとしてはあまり出てこないが、やはり良くなっているのではないかと思います。

ごみのないまちに「廃棄物」が大きな環境問題

もうひとつ大きな環境問題というのは何かというと、ゴミなんです。廃棄物は一般廃棄物と産業廃棄物に分かれます。

一般廃棄物はゴミと尿尿に、そのゴミは家庭系ゴミと事業系ゴミに分かれます。尿尿も生尿尿と浄化槽処理に分かれます。

産業廃棄物には燃えがら、汚泥、廃油、それから廃酸、廃アルカリ、廃プラスチックというものが一般的です。このゴミが一番問題になっている。

現在集めている量がだいたい現在1日に6000トンぐらい、そのうち燃やしているのが5200トンぐらい、それから埋め立てをしているものとその他に区分されます。本当をいうと、その他と書いてある中に再生利用があるのですが、この再生利用がもっともっと良くなれば良いのです。

「大量生産・大量消費・大量廃棄」から 「適正生産・適正消費・最小廃棄」へ

産業が低迷している終戦当時、産業を発展させるために、大量生産、大量消費、大量廃棄と言ったわけです。これはアメリカも言っていたのですが、ただしアメリカが言っていたのは大量生産、大量消費とは言っていたが、大量廃棄とは言っていなかった。ところが日本に来て勝手に大量生産、大量消費、大量廃棄になった。それが一番問題であるということで、このゴミ問題が起こってくる。

今年の環境庁が発表している環境白書、昨日発表したのですが、この環境庁の環境白書のメインテーマに書いてあるのが「適正生産、適正消費、最小廃棄」なんです。出来るだけ適正に作り、適正に消費し、最小の廃棄をしようというのが命題になっている。やはり出来るだけリサイクルすることが必要です。生産の段階で歩留まりを良くするとコストが安くなる。そこへ持ってきて、廃棄

量が減れば処理費用が安くなる。ダブルで効いてくることがねらいである。そこをうまくやれば会社にとっては大変得である。

静かなまちに整備された 国道43号線の騒音対策

これ以外にこの環境白書では、町を静かにしましょうということが書いてあります。この静かな町ということで、兵庫県で一番有名になりましたのは、神戸から大阪まで行っている国道43号線という道路ですが、ここの騒音ということが大変大きな問題となっていました。70デシベル以上であったものが、今はだいぶ良くなって60数デシベルまで下がりました。43号線を走られた方は気が付かれたと思いますが、片道5車線の10車線だったものが、現在は片道3車線の6車線になって歩道との間に緑地が出来て、そこに今まで見られなかったような透明の防音壁が立っています。

あれは震災直後に、5車線から3車線にして防音壁を立てる。それから道路そのものを吸水型のアスファルトにする。今、走られると良くわかりますが、音がしなくなっている、ブレーキが利きやすい舗装道路となっている。これは震災後、お金は後から考えようということでやった。しかしこれで終わりではなくて、両側に14メートルずつ



整備された緑地と防音壁

の緑地を作るように計画している。全部で100メートル道路になることも現在計画しています。

この14メートルずつ両サイド土地を買収する費用が、約1兆円必要になっている。

震災で進んだ緑のまちづくり

それから、豊かな自然をつくろうと進めています。

阪神間で庭に木を植えたいと思われている方には、木を差し上げています。

震災直後に被災地に緑をとという大運動が起こって、日本全国から木をいただいております。

なぜ被災地に緑をとということになっているかという、見た目が良いということもありますが、実は街路樹がしっかりしていた道路の両側の家は震災の時に倒れていない、道路に落ちていない。崩れても街路樹でささえられていた。また、緑は水分を含んでいるので燃えにくい。実際に長田の大火の際に燃えた地域を線で囲ってみると、公園があったり街路樹がしっかりしていた道路では火が止まっていた。やはりそれが必要ではないかということから、道のある程度広げ街路樹を植えるようになりました。

東部新都心では徹底した環境対策を車の乗り入れ禁止も

私たちは震災後、震災復興の中でも環境問題をちゃんと考えようということを言っている。南側の東部新都心。ここでは徹底した環境対策をやるうと考えています。

あのエリア内の乗用車の乗り入れ禁止にする事も考えています。今考えているのはバスを電気バスにするということ。それから、すでにこれは対策していますが、地域冷暖房を入れるということで、IHDビルの地下にすでに神鋼さんが中央センターを作っている。そういうことで、あの地域には出来る限りの環境に対する対策を実施していきたいと考えています。

震災の混乱の中 策定した「兵庫県環境基本計画」

兵庫県では環境ということを基本的にどう考えていくのか、ということをもとめたのが「兵庫県環境基本計画」です。

環境問題に大きく踏み出した最大の理由は震災が契機です。震災の際、皆さんが大変困った。それでまず何を考えたか、食べることなんです、食べ物が欲しいこれがまずひとつ。二つ目排泄する場所が欲しい。次に寝るところが欲しい、四つ目に着る服が欲しい。

これが落ち着いてきて、周辺的环境が気になりだした。だから、がれきで粉塵が飛んで来てどうのこうのと言われ出したのが、ほぼ1ヶ月半たってからですね。

食べ物が無い、寝るところがない、着る服がない、これは昭和20年の終戦後、5年ぐらいかかってこの経緯を辿って行って人間の正常な生活に戻っていった。

その5年かけてやったことを、この震災の神戸の地域では、ほぼ1ヶ月で同じ経験をたどった。

ただ何でそんなに早く対応出来たかということ、震災を受けた地域が限定されたからなんですね。神戸から阪神地域は震災で大変なんです、一歩淀川を超えて大阪にはいると全く何ごともない。

兵庫県の職員の中には大阪から通っている人間が何人もいるが、彼らは県庁に来るのに運動靴とGパン姿で来ないと格好が悪かった。ところがこの格好で大阪を歩くと恥ずかしい。そのような時期がしばらくあったのですが、いわゆる震災ルックですが、それがだんだん立ち上がってきて環境対策が進んでいった。

43号線問題で最高裁判決がおこったのが、震災直後、平成7年7月7日なのですが、その直後にこの環境基本計画が出来ました。本当ならばこのような案を作ると、色々なところからけちを付ける人がたくさんいる。

だいたいこのような計画を立てると2年から3年かからないと出来ない。ところがあの時は、震災直前の12月ぐらいからこの作業に入って、震災



が起り一時中断はしましたが、2月の中頃になってあの作業を始めようということになり、始めだして関係の方々これを配った。「こういう計画を作ったのですがよろしいですね」ということで、4月の中頃に出して5月の何日頃までにご返事を下さいということで皆さんに出した。震災で忙しくて皆さんこんなもの読む暇が無くて、5月の中頃の回答期限にだれも回答してきていなかった。そういうどさくさに紛れてできた基本計画ではあるんですが、それだけに良いことが書いてあります。

今環境の状況がどのようになっているのかというと、例えば自動車の問題、農村での働き手の不足、開発による自然環境の減少、生活資質の高さ、精神の高さが強められていること、それから地球温暖化問題等々が起こっている。

●●● すべての人が「環境問題の加害者」であるという認識

その特徴点のひとつは、私たちの社会は資源エネルギーを使用することで成り立っている、資源を使うということは、自然を傷つけたりゴミを増やすことにつながります。エネルギーを使うということは、二酸化炭素を増やし地球温暖化の原因となります。つまりすべての人の生活が、事業活

動が原因となりうるのです。ということで皆さんが加害者であるということがここではっきりうたっているわけです。

しかし、私たち一人ひとりが環境を悪くしているという実感が薄く、これが意識の差なんです。

また、環境がどのように変化し、私たちにどのような影響を与えるか、ということが分かりにくくなっています。地球温暖化がそうですし、オゾン層ホールの問題がそうなんです。地球温暖化によって海の水面が上がったことによって気温が変わる、気温が変わったことによって自然が変わっていく。ほっておくとだいたい2100年には世界の10大都市は水没してしまう。そういうことは誰も気が付かない。

オゾン層ホールの問題でもオゾンがだんだん無くなっていくと、紫外線が当たってきます。紫外線が当たれば皮膚ガンが起こります。皮膚ガンが起こるとガンで死んでしまう人が増えてきます。といってもなかなか分からない。最近やっと気が付いてきてUVケアという化粧品が売られている。化粧品を使ってUVケアをする前に、自分たちの努力により地球をケアしましょうと言いたいのです。やはりもっと原点に戻った議論がないかと思えます。

環境の恵みを未来に引き継ぐために 全員の「参画と協働」の推進を

じゃあ未来に引き継ぐために一体何をしたらいいのか、ということがここに書いています。

環境適合型社会形成のための5つの目標

社会の構成員すべての参画と協働の推進
循環を基調とする地域環境への負荷の
低減
豊かで多様な自然環境の保全
ゆとりと潤いのある美しい環境の創造
地域からの地球環境保全の推進

「参加」ではなく「参画」 そして「協働」……

社会の構成員全ての「参画と協働」の推進、堅い言葉で書いてあるのですが、これは今までと何が違うかという、良く字を読んでいただければ分かるんですが、社会の構成員全てが、「参画」なんです。「参加」ではないのです。誰かがこの指集まれと言ったら、その指に集まってくるのは参加なんです。そうじゃなくて、この指一本を、自分で立てようということ。ひとり立つの精神なんです、これが「参画」なんです。

それから「協働」なんです。同じことに協調するのではなくて、一緒に働くことが必要なんです。一緒になって、みんなで渡れば怖くないではありませんが、要するにみんなで働こうということなのです。

兵庫県では「財団法人ひょうご環境創造協会」というものを作りました。この協会では民間の団体の皆さんと何かをやっていこうということをご提案しています。また、事業者には自発的に環境の管理や、日常生活に伴う環境の負荷を県民が客観的に自己診断できるシステムをお願いしています。これは情報公開をやって下さいということをおっしゃっているのです。

それから環境学習や、教育基盤の充実を図ろうということで、色々な環境学習施設を作っていて、皆さんで勉強していただきたいと思っています。東部新都心のIHDビルの西側だったと思いますが、ここにヘルスケアパークという室内型学習施設を作ります。この中に環境学習のコーナーを作ります。完成は2002年ぐらいだと思いますがご覧いただけたら良いと思います。

県の環境情報を インターネットで公開

兵庫県は環境情報をインターネットで環境情報を公開しています。

一度アクセスしていただくといいんですが、ちょうどアクセスした1時間前の大気環境のデータが読みとれるようになっています。

それから2番目が循環を基調とする地域環境への負荷の低減を進めています。いわゆる地域の環境を良くするために、できるだけ資源は循環をしましょう。ゴミの発生を減らしましょう、捨てないようにしましょう。大気汚染や水質汚濁の負荷をできるだけ減らしましょうということ。それと緑、緑化対策を進めていきます。

3番目が豊かで多様な自然環境の保全で、生態系の保全をやっていましょう。それから野生生物をもっともっと大切にしましょうということをおっしゃっています。

4番目が、ゆとりと潤いのある美しい環境の創造ということで、これからは都市公園をどんどんどんどん作っていきましょう。自然公園も4倍に



兵庫県では、パンフレットなどのほか、パソコン通信やインターネットなどにより情報を発信しています。

拡げようという作戦もやっています。2000年で終わるのですが、まだちょっと青息吐息というところがあるんですが、10年間でいろんな公園を作っていました。同時に人と自然のふれあう場所を提供していきます。

それから5番目が、地域から地球環境保全への推進ということで、二酸化炭素などの温暖化効果ガスの対策とかオゾン層保護とかフロン対策、こういう地域環境問題について頑張っていきます。

それから国際機関と協力して国際環境を進めていくということで、今年、APMセンターというのを兵庫県で設立して動かします。そのアジア太平洋地域における地球変動に関する研究のセンターを作ります。実際に研究するわけではなくて、研究のダブリを調整する、情報を提供する、研究費を支援する頭脳集団なんですが、そういうものを作ります。

それから水問題では、JICA研修で毎年10人の研修生を受入れて6ヶ月間研修をやっています。今年で6年目ぐらいになりますが、各社に協力要請をしております、神鋼でも加古川で2日ぐらいの研修をやっている。

酸性雨のJICA研修もやっています。酸性雨問題というのは最近大きくなってきているので、このモニタリングと対策の計画を策定するという研修をやっています。

みんなで取り組もう 意識はあってもやらなければダメ

次に、じゃあ、あなた達は、県民の皆様方は何をやるんですか？ということが重要です。

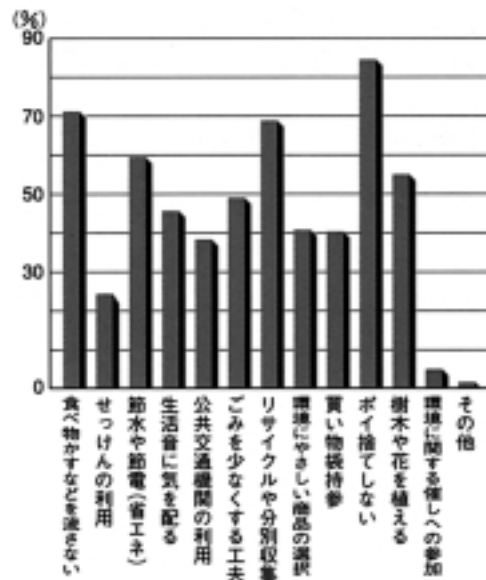
アンケートで取り組み状況を聞いてみますと、皆さんは環境問題で今何に関心があって何を頑張っていますかというアンケート結果としては、一つ目はごみをポイ捨てをしない、二つ目が食べ物等のカスを流さない、三つ目が分別収集、四つ目にあるのが節水・節電、五つ目が樹木や花を植えるとなっています。一度これを皆さん方も、意識を持って何をやっているかなということをチェックしてみてください。意識にはあるけど、やって

いないというのが多いと思います。

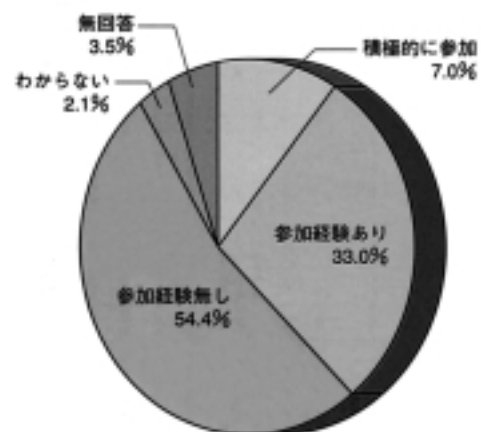
地域で自主的なリサイクル、河川浄化、緑化、自然保護の活動をどの程度していますかということに対して、参加経験ありが33%、無しが54%ということなんですね。皆様の中に今までにボランティアとして環境問題で例えばゴミの清掃をやったとか、リサイクル活動をやったとかいう経験のある方はおられますか？ほとんど無いと思うんです。できれば今日のような勉強だけではなくて実践をやって欲しいんですね。六甲山にゴミ集めに

アンケートで取り組みの状況を聞いてみました。

環境の保全・創造に関する工夫や努力で
毎日の暮らしの中で現在していること



地域における自主的なリサイクル、河川浄化、
緑化、自然保護などの活動への参加経験



(環境適合型社会の形成に関する県民アンケート調査一平成7年9月一)

行っていただいても良いと思いますし、須磨の海岸のゴミを集めることをやっていただいても良いと思います。そういうことをやっていただくのも良いのではないかなと思います。

実践のひとつに水を大切にしましょうということで、水切りネットを使用して下さい、流してゴミを流さないで下さい、洗剤の使用量を減らして下さい、泡が立たなくても洗剤は有効ですよ、節水ゴマを使って下さい、風呂の残り湯を洗濯水として利用して下さい、ということをお願いしています。

●●● 加古川製鉄所で ●●● 従業員の水使用量が4分の1に

工場においても同様のことがいえます。以前私が提案してやったのですが、神戸製鋼の加古川製鉄所の工場用水のうち、生産に使っている工場用水は除きまして、蛇口から出てきている水、手を洗うとか撒き水をするとか、ちょっとした器具を洗うという、本来の工程水として使っていない水の使用量が1日平均従業員一人あたり2トンだったんです。一般家庭で一人あたり水の使用量をご存じですか。平均400リットルなんです。それが工場の中で、何で一人あたり2トン使うか、理由は簡単なんです。タダだからです。

ご存じの通り家庭の蛇口というのは細いです

が、工場の蛇口は太いのです。ぱっと開けるとどんと出るわけです。例えば手を洗うときは、石鹸を使って手を洗う前に水で濡らします。その後水で流すはずですが、石鹸を手にぬっている間、水はどうしていますか。たぶん流しっぱなしだと思います。これを止めようという意見が出ました。

ただし、これを従業員の方々に言ってもなかなかしてくれないでしょうから、何をしようかと言ってたんですが、その当時の用水課長さんに水圧を下げたらと提案したのです。

水圧を下げた結果、何が起きたかということ、1日使用量が500リットルになったんです。すごい節水なんです、ですから水道料金もすごく助かったと思います。

いま私も県庁でも同じことをやっております。水道を出してもイライラします。ちょろちょろしか出てきませんから、いっぱい開けても同じなんです。県庁でもやろうと言ってやったんです。

●●● 「生活排水99%大作戦」実行中

次に「生活排水99%大作戦」についてお話しします。

これは県下全域の生活排水をすべて処理しようということなんです。下水道整備を進めて、2004

生活排水99%大作戦を行うにあたり、県民、行政(県・市町)の参画と協働のもとに、総合的・計画的な取り組みが求められています。



年にできたら99%に持っていきたい。99とは何かというと100%なんです。現在、84%ぐらいです。全国で第3位、大阪府と同位です。東京都が1位でたしか北海道が2位だったと思います。これからもこれは進めていかなければいけないと思います。

二つ目は省エネをしましょうということで、できるだけ電気使用を減らしていきましょうとお願いしています。具体的には、室内の冷暖房の温度を控えめにしましょう。できたら冷房は2度、暖房も2度上げ下げをしよう。それから電灯のスイッチはこまめに消しましょう。こういうことをやる。

それから自動車の使用を控えましょう。できたら歩いていきましょう。10分の距離は歩きましょうよ。これをできたらやって欲しい。町へ行くときにはもよりの駅に車を置いて電車で出ていきましょう。それから、アイドリングを止めましょとか、こういうことをお願いしたい。

その次がゴミの問題、ものは大切にしましょう、分別収集をやりましょう。買い物するときは買い物袋を持って行ってやりましょう、それからリサイクルにできるだけ協力しましょう。

次が、自然と仲良くということで、自然を大切にしましょう。また庭はきれいにしましょう。

一番最後が、地域・グループで環境保全の取り組みに参加しましょう。地域の団体等々でいろんなリサイクル、緑化、環境美化、里山の保全、こういうのを子供会、老人会、婦人会、自治会、消費者の団体、労働組合等で頑張ってください。大きくはこのようなことをお願いしていきたいと考えています。

こういうことをやることで、自分たちが環境というものを学んでいただける。動機付けを作るきっかけになるということなんですね。ですから、そういうことを一人ひとりがやっていくということが必要だということなんです。

地球温暖化対策 京都議定書と私たちの挑戦

今一番関心が高い地球温暖化対策これについて少しお話をしたいと思います。「京都議定書と私

たちの挑戦」というパンフレットに「地球温暖化防止京都会議のあらまし」というものが書いてあります。

地球温暖化を防ぐため、1992年5月に「気候変動に関する国際連合枠組み条約（UCFCCC）」が結ばれました。世界各国が力を合わせて大気中の温室効果ガスの濃度を一定程度以上には増やさないようにすることを目的として、2001年以降の削減目標を定めるということで、1997年12月、一昨年ですが、京都で第3回の締約国会議が開かれて、「京都議定書」というものが決まった。

その時定められた目標というのが、日本がマイナス6%、一番多いのがEUとスイスでマイナス8%、アメリカが7%削減ということであります。これによって先進国全体で温室効果ガスの削減は5.2%なる。1990年には46億トン炭素換算で出していた。それが1995年ではマイナス4.8%まで下がりました。2000年には、またプラス4.8%まで上がっています。これをマイナス5.2%まで下げようということなんです。

このために皆さんに努力をしていただかなければいけないのです。日本の場合は6%となっていますが、これは実は全くできない数字なんです。今の計画でいって2.4%ぐらいしかできない。残りをどうするのかというと、ソ連から権利を買おうかと言っています。それが現実です。対象ガスは二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、フロン関係、六フッ化硫黄等があり、2008年から2012年間の5年間の平均値が、1990年のマイナス6%になるようにして下さいと決められているということです。

これを決めるに当たって3つの特典を付けています。ひとつは排出権の取引、先進国の排出量はその国の目標を下回った場合、その下回った量を上回ったところに売ることができますよ、また上回ったところは譲り受けることができますよということで、これは日本がアメリカから買ったりカナダから買ったり、ロシアから買ったりすることができます。実はロシアはいまプラスマイナスゼロになっているんですが、どんどんどんどん景気が悪くなっているんで、燃料使用量が落ちてきています。そういうことでマイナスになることがほ

ば間違いないので、それを日本は買おうとしています。これを排出権取引と呼んでいます。

二つ目は多国間による削減量の国際移転（いわゆる「協同実施」）これはちょっと難しいのですが、例えば日本とハンガリーが協同で何か対策をとったときは、出したお金の比率で削減量を配分しますよということです。

三つ目がクリーン開発メカニズムで、途上国が削減のために努力をし、その費用を先進国が払った場合は、その払った費用に見合う削減量をもらうことができますということです。例えば中国に現在製鉄所があります。ばんばんCO₂を出しています。その製鉄所に日本からお金を出して対策を取ることによってCO₂発生量を下げた場合、その下がったCO₂量は日本の権利になります。ということなんです。

それからまた、先日、フィリピンで大火事が起きて木が燃えて無くなった、あそこにお金を入れて植林をしました。するとその植林をした樹木が吸収したCO₂量は日本の権利としてもらうことができるというシステムなんです。

グリーン開発メカニズム 神鋼がモンゴルで植林

新聞に載りましたんで見られた方もいると思うんですが、神戸製鋼の神戸製鉄所が今度IPPという火力発電所を作ります。CO₂量がたくさんです。この発生したCO₂量はどうするのか、責任をとれという話がありまして、発展途上国で植林をやることにしました。最近モンゴルでそれをやるということで私がお世話をさせていただいて、来年ぐらいからスタートさせようとしています。

木を植えて育つ間に吸収するCO₂量は、神戸製鋼所の権利になるということです。そういうことで見開きにもありますが、国際協力に進めるということで、いま申し上げたようなことがずっと中に書いてあります。開いたところに書いてあるのが、我が国は、1990年に炭素換算量で3億3千4百万トンあり、これがベースなんです。これのマイナス6%を削減しなければいけない。それが

1995年には3億6千3百万トンに増えている。これが8.6%増えることになる。これを今度は下げなくてはいけない。だから下げましょうと大見得を切りながら増えているという状況にあるということなんです。

●地球温暖化を防ぐ4つのチャレンジ●

- 省エネやリサイクルなど環境にやさしいオフィスづくりを目指す



- 環境にやさしい暮らしを自ら考える



- 世界中で実施されているこれからの運転マナー



- 人の健康にも環境にもやさしい



詳しい資料は
環境庁「4つのチャレンジ係」
〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ間1-2-2
TEL 03-3581-3351
または、都道府県、政令指定都市の環境部局まで
お問い合わせください。

まず県庁が率先して行動 県のCO₂排出量を10%削減

それで、じゃあ私たちは何をやるかということになりますが、左にありますようにグリーンオフィスとか、環境家計簿とか、アイドリングストップとか、一日一万歩とかが考えられます。では、会社として何をやるかということになりますが、県としては、「環境率先行動計画」というものをつくって進めています。県庁自らがこれをしますよと宣言したものです。それでこれを皆さんでも、少し見習っていただきたいというのが底流にあります。

環境負荷の低減に配慮した事務の執行をしましょう、環境負荷の低減や周辺環境に配慮した庁舎の建築・管理等をやりましょう、環境負荷の少ない製品やサービスの積極的な選択を行いましょうということです。

ひとつがCO₂の削減ということで、県のCO₂排出量を2010年までに1990年の10%削減しましょうと、つまり国が6%削減すると言っているものを、10%削減しましょうということですが、これはすでに1990年以降、増えていますので、2000年度までに県職員一人あたりのCO₂排出量を、1990年レベルまでに安定させるために必要な削減量の2倍を削減しなければなりません。

具体的には何をやっているかということ、ひとつ目には水曜日を県職員エコアクションの日に指定しています。

コピー・自動車・エレベーターを 使わない

まずひとつが午前中はコピーを使用しない、エレベーターに乗らない、自動車に乗らないことを言っています。

実際には、コピー機ですがだいたい各部にコピー機が10台づつぐらいありますが、各部コピー機は午前中は緊急用の1台のみ残して、後は全部電源を切り動かさないということを言っています。

エレベーターに乗らない、これもこの日につい

てはエレベーターを何台かは止めています。できるだけ歩くようにしましょうということをやっています。

自動車に乗らない運動ということで、この日については出張の時に車に乗らずにできるだけ電車に乗って行って下さい。

定時退社をしましょうということで、この日については7時で帰りましょうということを行っています。県の職員はほっておくとだいたい9時ぐらいまで残業しています。これを7時に退社しましょうと言っております。

それから二つ目が、昼休みや残業時に不必要な照明を消灯しましょうということをお願いしています。現実はどうやってこれを実施しているかというと、お昼休みの12時になりますと庁内の照明が一斉に消灯します。もちろん照明だけでコンピューター関係はついてます。後でスイッチを押せば照明は灯くのですが、それをするにより惰性でつけている電気を止めようということです。

今のところ13時まで頑張っておいて我慢してくれています。職場で食事を食べる方は、おかげが見えないから味が悪いなど言っていますが、我慢をさせていただいています。

夜は7時と8時に電源が落ちます。保安用として、一番窓側から遠い1ラインの電灯を残して全部電源を落としています。それ以降残業したい人はもう一度つけます。なんでそんなことをするかというと、職員が70名、80名いる部屋ですと夜いったん電気をつけてしまうと、どんどん帰ってしまって、その部屋に2～3人しかいないにも関わらず、全部の電気がついているんです。

7時にいったん電気を全部消してしまうと、残っている人は、ぶつぶつ言いながら自分の一番近いスイッチだけつけに行くんです。すると自分の座っているラインだけはつくんです、他の電気は消灯されたままです。

エレベーターについては、1号館には全部で7台エレベーターがあるのですが、いまは夜6時になると2台になります。日曜日は1台しか動いていません。ですから廊下を歩いて端まで行かないとエレベーターに乗れない。それから、5階以上

については乗って良いが、4階までは歩くように徹底しています。

冷暖房については冷房時は28度、暖房時は19度に設定しています。公用車については低公害車を積極的に導入し、アイドリングストップを徹底しています。この公用車の低公害車導入というのは、一つは天然ガス車とか電気自動車をいれてくださいということですが、なかなかそういうわけにもいかないのが現状は低NOx車、NOxの基準があるんですがその基準の1/2以下の車でないと買うことを認めませんということでやっています。

知事の公用車はプリウス

それから最近ではプリウスですねハイブリット車これをできるだけ積極的に入れています。

いま知事もこれに乗って走っています。おもし



半ソデ、ノーネクタイのエコスタイルで登庁する貝原知事と公用車プリウス

ろいんですが、ちょっとした会議があったときに皆さん黒塗りの良い車で来るんですね。

この間ポートピアホテルで会議があったときに知事がプリウスに乗って行ったんですが、降りるときは良いんですが会議が終わって出るときに、ホテルのドアマンが皆さんの車をお出迎えして乗せるんですね。

そうして順番に神戸市長とか神戸商工会議所の会頭とか神戸製鋼所の社長とかお迎えの黒い車が来るわけです。

知事が出ようとするするとプリウスが目の前に止まったんです。するとドアマンがそのプリウスの運転手に向かって「すみません知事の車が入るのでどいて下さい」と言ったそうです。知事はそれを聞いて大喜びしたそうです。プリウスが、いまだ20台くらい入っているかな。

それから太陽光発電を導入しようということで現在工事中ですが、県庁の屋上全部に太陽電池を入れます。窓も6階に入れます。ちょっとお帰りに見ていただいたら分かると思うんですが、他のところは窓の擁壁がコンクリートで作っているのですが、6階だけはガラス張りになっているんです。

このガラスを全部太陽電池に置き換えようとしております。全部入れても50kwぐらいにしかならないんですが、それでも入れることは、PRになるのでやることにしました。

ゴムの減量化 ゴミ袋は20人で1日1つ

それから廃棄物の減量化ということで、可燃ゴミを7年度実績から30%削減します。発生量を減らすためにコピーの使用量を平成7年度実績から10%削減する。紙についてはできるだけリサイクルして下さいということで、ゴミの分別を進めています。

一人あたりのゴミの量を制限しまして、ラベルを各課毎に配っております。20人に1日1枚、ですから20人で1日にゴミ袋一つしか出せないようにしています。

会議の資料は1枚ベストにして下さい。それからペーパーレスのために庁内LANを使って電子メールをできるだけ使って下さい、こういうことを言っております。

水の使用量10%削減については節水ゴマを使っております。それから県庁の便所について、現在、女性の方のために水を流さなくても音が聞こえないということで除音装置を入れました。

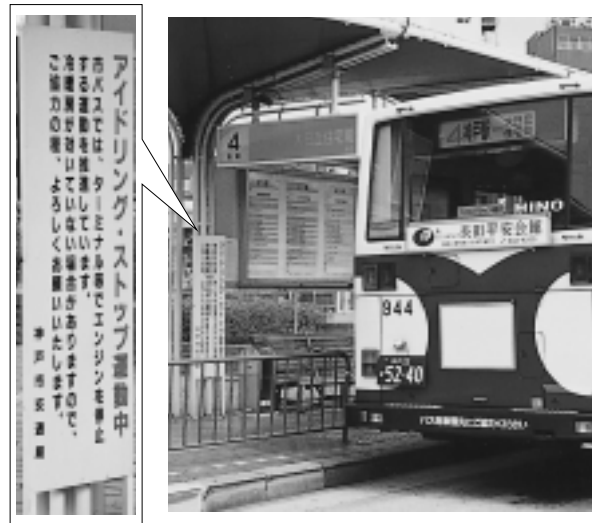
またグリーン調達ということで環境配慮型の製品をはっきりと決めてそれについて買いましようとか、コピー用紙は古紙が70%以上というようなことを決めています。

不思議とリサイクル紙に慣れてくると、きれいな紙を使うと目が痛いんですね。それからパンフレット類についても全て使っています。裏に何%かリサイクル70とかと書いてあります。

県が提唱の運動 日本一厳しいアイドリングストップ

いま兵庫県が提唱している運動が二つあるんですが、ひとつがアイドリングストップ。これは条例で罰則規程をもうけてやっています。アイドリングストップの違反で罰金10万円なんです、全国で兵庫県だけです。外国では同じようにニューヨークでやっています。

できるだけアイドリングストップをやって下さい、ということをお願いをしています。特にこれ



神戸駅前のバスターミナル

から夏にはいると乗ったときに冷房がかかっていないと暑いんですね、だからエンジンをかけっぱなしにして冷房をかけて出て行かれる。

これを止めようということを、いまお願いをしております。今年からは神戸の市バスもアイドリングストップをやります。始発駅、神戸駅とか三宮駅で乗ったときに暑いと思います。いままでですと暑いと苦情を言われるので、だいたい1時間前ぐらいからエンジンかけっぱなしなんです。つまり逆に言うと、休憩時間が1時間ぐらいある時で車庫に入ってもエンジンかけっぱなしなんです。それを止めて下さいとお願いをしております。ですから乗ったときに暑いと思われるでも我慢をお願いしたいと思います。なぜそれをバスでやるかという、バスでやると皆さんにPRできるだろうと考えています。

一般の乗用車についても、お願いしたいと思います。ただしまだ罰則の10万円は取った例はいままでありません。できたら今年ぐらいからやってみたいと思います。

よく言われますが、一罰百戒といいますがね、アイドリングストップしてない人を100人全員処分すると大変なんで、その内のひとりだけ処分すると100人に効果があることを一罰百戒というんです。こういうことを考えています。ですからできるだけアイドリングストップを気をつけてやっ

ていただきたい。

罰金が取られるのは、エンジンを止めないで車から離れる、これは駐車違反なんです。駐車違反の時にエンジンをかけっぱなしにしていると、10万円の罰金を取ることになります。こういうことを是非お願いしたい。

いま、宅急便の車がだいたいやってくれています。あんまり気がつかれていないと思いますが、歩いていて気をつけてみていただくと気がつかれると思います。宅急便の車が止まっているときエンジンは止まっています。どうやってあれをやっているかという、鎖でベルトとエンジンキーをつないであるんです。つまり、車を離れるときにキーを抜かないと離れられないようにしてあるんです。するとエンジンは止まるんですね。またアイドリングストップをやっていますというステッカーを貼っていただいています。これからは一般車にもお願いしたいと考えています。是非ご協力のほどをお願いしたいと思います。

● ● ● アイドリングストップで ● ● ● ガソリン代1割減

現実にアイドリングストップをするとどの程度の効果があるかということなんです。これはある運送会社がやったんですが、1年間でガソリン代が4億円助かったそうです。だいたい、年間ガソリン使用量の1割です。ですからアイドリングというのは馬鹿にならない。

● ● ● 主電源オフで ● ● ● 電気無駄遣いをやめよう

二つ目は主電源オフというものです。「さて、寝るとするか。」「ねえ、テレビに何かランプがついているわよ。」「ああ、リモコンによる指示を待つために入れておく主電源のランプだよ。」「ふーん。でも、電源が入っているってことは電気の無駄遣いだし、家計の無駄遣いよね。」「そうだね、『主電源オフ』しようか。」ということで、リモコンで電源を落とさないで主電源で落として下さ

い、これを是非お願いしたい。

一般家庭では、テレビ、ビデオそれからステレオ類、空調機エアコンですね。これは全部主電源が入ったままなんです。

これを抜きますとだいたい年間の電気使用量が2割減ります、ですから是非やっていただきたい。

こまめに切るというのは大変だと思うんですが、例えばエアコンですと暑くなりかける6月の末ぐらいにコンセントを入れる。また9月頃になったらコンセントを抜く、冬も使う時期の直前に入れるその間は入れない。

ビデオはちょっと大変なんです。予約をしないときはコンセントを抜く主電源を切る、実はビデオ、エアコンなどには主電源のスイッチはありません。コンセントを抜く以外に電源を切る方法はありません。

これをメーカー側にスイッチをつけるよう言っています。特にコンポなんかは後ろでコンセントを抜くことは大変ですし、エアコンも上の方にコンセントがあるので抜くのが大変なんです。だから、スイッチをつけて下さいとお願いをしています。

20年ぐらい前はあったんですがいつの間にかなくなっているんです。

もうひとつは冷蔵庫ですが、冷蔵庫に食品を詰め込みますとコンプレッサーがずっと回って、ものすごい電気の無駄遣いになります。ですから詰め込みは止めましょう、それから掃除機のゴミはこまめに捨てて、空気圧がかからないようにしましょう。洗濯は適量にまとめて洗いましょう。エアコンは28度以下に、また、こたつの下にはマットを敷きましょう。

こういうことをすることによって、家庭の平均的な電気代7000円として、待機電力を止めると1割の月700円が節約になります。

これは助かるというだけではなくて、これによって環境というものが良くなっていくということを認識して、お願いしたい。

皆さんも加入して下さい ナチュラルウォッチャー

それからもう1点、お願いしたいことがあります。

ナチュラルウォッチャーといって、自然を皆さんで観察しましょうという会をつくっています。会に入ると、自然に関する情報誌を送ってきます。募集は、平成10年7月から開始して、いつでも申し込んでいただいて結構です。これを申し込んでいただいても、会費はおりません。それで兵庫県に関する情報が送られてきます。ご覧をいただいて、いろんな催しにご参加をいただくという、ただ単にそれだけなんです、皆さんに関心を持っていただくということから、このナチュラルウォッチャーというのを募集しています。もし、参加しようという方があれば申込用紙がございますので、これに書き込んでいただいて、申し込んでいただければ登録できます。

登録しますと、登録が済みましたということで、資料が届きます。その後、年にだいたい4回ぐらい「自然とともに」というパンフレットが届きます。その中にいろんな催しがございます、参加自由です、退会の必要性もございません。是非これにご参加いただきたい。

だいたい、県下で6000人ぐらいの方が入っておられます。できたら今年中に1万人にしたいと思っていますので、是非ご参加をいただいたらと思います。

私の話は一応これぐらいにして皆さんのご意見ご質問を受けたいと思います。何かございますでしょうか？



ナチュラルウォッチャーに登録ご希望の方は、添付の申込用紙にご記入の上、組合書記局まで送付下さい。

質問者...兵庫県庁でいろんな取り組みをされていることなどのいろんなお話があったんですけども、私たちの会社でも昼休み電気を消そうとか言っているんですが、取り組むスタンスというのが「環境保護」というよりも「経費削減」ということが常に前に出ていまして、景気が悪いときは一生懸命やろうと言うんですけども、やや持ち直してくると吹き飛んでしまうと、そんなことをここ20年ぐらい繰り返しているような気がするんですね。

それでこの4月からうちの会社もISO14001を取ろうということで、遅ればせながら専門の部署ができて取り組みだしたんですけど、どうも聞いていると「環境の会社なんでそれぐらい取っとかんとかかわるいで。」みたいなところでね、本気になってやろうとかいうところにはいかないんですね。

だからどうしても地球環境を守るという見方と、企業の営利というそのへんがどうもなんか克服できないような感じなんですけど、そこらはどうお考えですか。

小林.....現実はそのだと思うんですよ、うちだって夜間、電気の一斉消灯をやりましょう。皆さん早く帰りましょう。このスタートの発想は本当は環境対策ではなくて、うちは環境対策と言っていたのですが、最初にぱっと乗ってきたのは実は総務部なんです。理由は、超過勤務手当が助かる。これが一番の主眼だったんです。だけどそう言いながら、皆さんだんだん環境に関心を持ってきていただいています。

それからもうひとつ、ご存じのISO14001取得、各社でも「取っとかないと、かっこ悪いよ」と言いながら結構取ってきています。もうひとつは温暖化対策で、自主行動計画というのを各社毎に今作ることでなっています。今後、各社で作られたものが公表されます。公表した後、やってないともっとかっこ悪いんですね。

ISO14001も第1回目を取るときは楽なんです。あれをします、これをしますと書き、それが一定のレベル以上になっていれば取れ

ます、ただし、毎年再チェックがかかります。この再チェックの時に言ったことができていると取り消されます。

こっちの方がもっとかっこ悪いんですね、ですから理屈は何でも良いんです、やろうと言ったら「やろうやろう」と言って乗ったら良いと思うんです。そのかわり、後で経営陣の皆さんは「えらいもんに乗ってもたな」ということで後悔されると思います。

現実にはどこの会社もそんな感じです。特に日本の会社というのは、本当に本気で環境対策をやろうと思ってる方はあんまりいません。でも結論として、環境を節減することによって経費節減につながるということが、そのうち理解できてくると思うんです。だから、環境問題というものは思想と理念だけではできるとしてはいけません。やはり、市場原理が働いてきますから環境も資源だという意識がどっかに出てきて、初めて動き出すんだろうなと思います。

他にありませんか？

自分が家で何かひとつ環境のために配慮していることはありませんか？

なんかありますか？

会場の声...石鹼を使う。

小林.....石鹼を使うとって合成洗剤使っていますか？

合成洗剤より石鹼の方が環境に優しいよと

いうことで、県下全域にアンケート調査をやったことがあるんですが、「私は、水をきれいに守っていくために、石鹼を使っています」というアンケートの結果が全体の70%、合成洗剤を使っていますという方が30%だったんです。

ところが県下で石鹼と合成洗剤の販売比率はだいたい合成洗剤が60%石鹼が40%なんです。

ということは、「石鹼を使う方が環境には優しいよ、しかし私は合成洗剤を使いたいよ」ということとやるのが違う人が30%いるということなんです。

これがさっき言った意識と行動にギャップがある、ズレがあるという問題なんです。これをできる限り近づけるということが必要なんです。

車を使わない方がいいよと言いながらバイクに乗って駅の前に不法駐車をされる。

私はこの間から子供さんがいる家庭に推薦していることがあるんです。温暖化対策のために電気を節減しましょう。大きな家じゃないからと言われるかも分かりませんが、「一所帯一灯主義」を推めています。

リビングルームひとつしか電気をつけない、なぜかという家に戻ってきたら、寝るまで家族全員が同じ部屋にいて、同じテレビを見ている。

これによってスキンシップができるし親子の会話ができるということで、やっていただきたい。

それから洗濯するときは、風呂の残り湯を使いましょう。私の家では、今は子供、女の子ひとりなので一所帯3人なんですけど、電気代と水道代は、現在でも、「基本料金」のみです。ですから電気代が7千円も8千円もする家庭があると聞くと驚くんですが、実はそれが普通らしいんです。

それから、水問題でいうと天から油というのはものすごく水質汚



濁の原因になるんです。ところが天ぷら油を捨てる方が多いんです。天ぷら油を捨てないように工夫されれば、水質汚染も少なくなります。

他にございませんでしょうか。

○●○

質問者...家で何かやっているかということなんですが、最近、「ゴミを分別して出してよ」ということがよく叫ばれていて、スーパーで使っているプラスチックのトレイなど洗って保管して、別に出すようにしているんですけども、もう少し進んだ形として例えばスーパーに働きかけて、容器を持って行って入れてもらう。そういう取り組みに今後発展すべきではないかと思うのですが、このあたりはどうでしょうか？

小林.....良いアイデアだと思うんですね。ただし、今の方々はどうしているかというと、土日にまとめてスーパーに行き行って物を買ってくるんですね。

昔は奥さん方ってあまり働きに出ていなかったということもあるんですけども、毎日市場に買い物に行ってたんですね、ですから例えば豆腐を買うときに、お鍋を持って行ってそこに水を張って豆腐を入れて持って帰ってきていたわけですね。

今それをやれといっても、できっこないと思うんですね。それであと、やれるとしたら買い物袋を持って行くことが必要だと思うんです。それからもうひとつ、調理をしていない魚を買ってきて自分で料理するという事です。これでトレイは必要なくなります。

今、女性の方で家で刺身を作れる方って珍しいと思います。魚がさばけないと思うんです。こういうところから少しずつ考え直していかないといけないのかなと思うんですけどね。

ただ、婦人団体の方で徹底してそれをやろうという方もおられるんです。しかし、それを皆さんに強要しても無理だと思うので、今、自分がやっている生活を少し環境のためにひ



とつでも良いから何かやろうということが必要です。いま話のあった向こうで袋をもらわない、買い物袋を自分で持って行ってそれに入れて帰ってくるようにしてもらいたい。

買い物かご、今はもう無くなりましたが、買い物かごを持って行く、まずはそこからスタートかなと思うんですね。

それからあとは、その食品トレイですが、見栄えを良くするためということがひとつと、型くずれをしないためにトレイというのは使われているのですが、食品トレイに入っていない物をできるだけ買うようにしていただきたい。

今、食品トレイはスーパーなどで回収していますが、あれはあの後どうなっているかご存じですか？半分ぐらいは溶かされてもう一度食品トレイに戻るんですが、そのまま食品トレイに作り直しますと、水洗いをしてもうどうしても上に薄く付いている食品系の油がトレイの中の不純物として混ざってしまうので、食品衛生法で引っかかるんです。そのために、今やっている方法は、あのトレイをとかしてもう一度樹脂にしてトレイを作るんですが、作ったときにそのトレイの表面だけにバージンの合成樹脂を薄く張り付けているんです。

じゃあ、あと50%はどうしているかというと、ゴミになって出ているんです。分別収集に

協力してますと、大見得切って箱を並べておられるんですが、入れられたトレイをまたゴミ箱にほりこんでいるところが見受けられます。これを止めていただかないといけません。

それからそういう方法でない食品トレイの再利用法というのを、いまいろいろ研究されています、逆に言うと、もう一度もとの物に戻すということは無理かもしれませんから、カスケードリサイクルといわれる、別の製品としてまた使う。

良くやっているのが杭とかベンチとして再成する。アイデアがなかなか出てこなくて、逆にそういうことがご専門の方もおられるかと思うんで、いろいろとアイデアを出していただいて、提案をしていただくというのが必要かなと思うんです。

○●○

質問者...ナチュラルウォッチャーというものに取り組まれていると聞きましたが、その中で「ひょうご環境創造協会」とありましたが、これは具体的には何をやっている組織なんですか。

小林.....この協会というのは県の外郭団体でいろんなことをやっています。しかし、ここでは何かを企画して皆さん参加しませんかというやり方はあまりやっておりません。逆に自分たちでグループを組んでこういうことをやりたいんだけど、というような提案を持ち込んでいただいて、それに対してお手伝いをするという形をとっています。

ですから、まず簡単なところでは自然に親しみましょうということで、例えばどこかへ見に行って体験学習をして帰ってくる。こういうところから始めても良いと思うんですよね。

例えば自然を見たり、ひとつ氷ノ山に行つてあそこの自然を見て帰って来ようとか、コウノトリを見て帰ろうよとか、こういう企画をされて申し込んでいただいたら、一応人が20名以上集まったらバスの借り上げ費用の2分の1を補助しましょう、こういう制度があ

ります。

それから勉強会をしましょうというときに、その団体で講師を呼んだりした場合は、講師への謝礼金をその協会で負担しましょう、そんなこともやっています。

それとおひとりで何かしたいという方で、ひとりで何もできないというときも、協会にお話しいただくと、一番それにぴったりのような団体を紹介してくれると思います。

最近、増えてきたのは、企業ボランティアをやりたいという会社が増えてきたことです。会社こそって従業員でゴミ集めに行きましょうとか、その時は有給休暇じゃなくて、別の休暇で有給としているようです。

それから、ボランティア活動でおもしろいのは、アメリカの高校生に「夏休みに何をしますか」というアンケートをしますと、三分の一がボランティアと答えるんです。

ですから30日休暇があったとすれば、そのうち10日はボランティア活動をしているんです。こういうことを授業の中で教えています。兵庫県でもそういうことをやりたいということで、時々新聞に載っていますが、トライやるウィークといって、中学生、小学生を1週間授業を離れて、泊まり込みで何かお手伝いしようとしています。

それでは、時間となりましたので私の話は終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

以 上